

海外事務所だより

シンガポール事務所

成長著しい東南アジアでの 皆さまの活動をサポートします！ ～クレアシンガポール事務所実施事業のご紹介～

(一財)自治体国際化協会シンガポール事務所所長補佐 与那嶺 一史 (沖縄県派遣)

順調に経済発展を続ける東南アジア、その活力を取り込もうと、さまざまな自治体が知事、市町長によるトップセールスをはじめ、観光フェアや物産展の開催などの活動を活発化させており、シンガポール事務所の活動支援件数も2014年度は140件を超えました。

今年度もさらに皆さまのお役に立てるよう、以下のような事業を展開していく予定ですので、ぜひ活用ください！

※各事業の募集情報などの詳細は、随時クレアシンガポール事務所ホームページ (<http://www.clair.org.sg/j/index.html>) に掲載します。

1. 海外経済セミナー

開催時期：2015年6月中旬

開催場所：都道府県会館【予定】

参加対象：日本の自治体職員など

内 容：シンガポール政府および東南アジアで活躍する日系企業の講演
自治体のシンガポール駐在経験者によるパネルディスカッション
【予定】

海外市場において効果的な活動を行うためには、目的意識の明確化とともに、継続的な取り組みとそのための体制作りが重要です。本セミナーでは、シンガポール政府および東南アジアで活躍

する日系企業の講演と、自治体のシンガポール駐在経験者によるパネルディスカッションを通して東南アジアの最新事情をお届けします。

昨年度はシンガポールにおいてゆずの販路拡大で成果を挙げている高知県の事例などが反響を呼びました。現地の生の情報に対するニーズは非常に高く、今年度も駐在経験者による熱い議論が期待されます。

海外の消費者から見た自治体のプロモーション活動は、自治体ごとの差異が見出しづらく、また必ずしも市場のニーズやその変化に速やかに対応できていないなどの課題があることから、現地の市場特性の把握、ブランド化・差別化が急務になっているといえます。本セミナーで取り上げる日本とシンガポールの連携、日系企業との連携、他自治体の先進事例などから、効果的な海外展開のためのヒントがきっと見つかるはずです。



駐在経験者によるパネルディスカッション

2. シンガポール政策研修プログラム

開催時期：2015年6月～7月頃 各コース2日間ずつ【予定】

研修先：【政策研修コース】シンガポールを代表する政策研究機関、シンガポール政府機関【予定】

【自治体の訪日誘客・海外販路開拓コース】日系政府機関、地方自治体駐在員事務所、現地スーパー、日系進出企業など【予定】

参加対象：日本の自治体職員など

内容：自治体における施策の企画立案などに直結するテーマに特化した視察・意見交換

地方自治体の職員などを対象に、先進的な施策で注目を集めるシンガポールにおいて、日系政府機関、現地政府機関、現地企業などを訪問し、視察や意見交換などを行うプログラムです。昨年度は、前半を「観光インフラ整備戦略コース」、後半を「自治体の訪日誘客・海外販路開拓コース」として実施しました。

「観光インフラ整備戦略コース」では、世界的に注目を集めるリゾート・ワールド・セントーサとマリーナ・ベイ・サンズの2つの統合リゾート施設やチャンギ空港などを訪問し、観光インフラがどのような戦略のもと設置・運営されているか説明を受けました。また、マリーナ・ベイ・シティ・ギャラリーでは、金融ビジネス街であると同時に観光誘客にも大きな役割を果たしているマリーナ地区の開発について学びました。さらに、シンガ



マリーナ地区の開発を学ぶ参加者

ポール航空では、世界的に高い評価を受けている同社のブランディングについて説明を受け、客室乗務員の訓練も視察しました。ほかにもシンガポール政府観光局では、観光業を持続的な成長産業へと主導すべく、「高品質のツーリズム」をキーワードに展開されている観光戦略を学びました。

「自治体の訪日誘客・海外販路開拓コース」では、訪日旅行誘客や日本食品の販売促進に関する取り組みを学びました。JETRO、JNTOをはじめ、地方銀行の駐在員事務所、日系・ローカルのスーパーマーケット、訪日誘客を行う日系旅行代理店などでの視察・ブリーフィングを通じて、シンガポールの実情を踏まえた商品開発・販売促進の実例について理解を深めました。さらに、シンガポール最大の国際旅行フェアであるNATASの会場では、プログラム参加者がビジットジャパンブースに入り、日本全体の案内や情報提供を実際に行うとともに、会場で販売されている訪日旅行商品などを視察しました。

今年度もさらに自治体における施策の企画立案により役立つような内容にプログラムをリニューアルして実施します。ふるってご参加ください！

3. 日本ふるさと名産食品展 in バンコク

開催時期：2015年11月5～18日の14日間

開催場所：タイ・バンコク都内百貨店
サイアム・パラゴン

出展内容：日本国内で生産された食品

タイでは、近年の日本食ブームもあり、日本産農林水産物・食品が注目を集めており、日本産食品に関する商談会や展示会などのプロモーションも活発に行われています。

先進的な自治体では、独自の物産展開催や、自治体の海外事務所による販路開拓を行っているものの、こうした取り組みは大変な労力を要するとともに、単独自治体での取り組みでは効果が限定的となるケースもあります。

このような背景を受け、自治体が地域産品のテストマーケティングと販路開拓のために手軽に参

加できる場として、食品展を開催しています。会場は、バンコク中心部にあるサイアム・パラゴンで、多くの地元客、観光客が訪れ、富裕層の来店も多い高級百貨店です。

昨年度は特に柿が、ひとりで20個も購入する客がいるほどの人気で、完売後、急遽追加で空輸した柿がさらに完売するという売れ行きでした。タイの人々は固い柿を好み、ひとつひとつ触って確かめてから買って行く姿が見られました。他方、梨は苦戦したものの、プレゼント用にと高価な箱入りセットを試食せずに購入する客もあり、日本の食品に対する信頼性の高さやラッピングなどで付加価値を付けることの重要性が感じられました。

海外で販路開拓をしていくには、現地で直接自分たちの商品をPRし、直接客の反応を確認することが大切です。また、現地に行くことでほかの商品の販売状況を知ることなど、さまざまな発見ができます。

タイでの販路開拓に「日本ふるさと名産食品展 in バンコク」を活用してみたいでしょうか？



にぎわいを見せる食品展会場

4. 地域間交流促進プログラム in ベトナム

開催時期：2015年11月上旬【予定】
11日間（国内研修3日間、海外研修8日間）

開催場所：国内研修（全国市町村国際文化研修所（JIAM））
海外研修（ベトナム・ハノイおよびホーチミン）

参加対象：日本の自治体職員など

内 容：ベトナムの政府機関、日系進出企業の視察、意見交換など

ベトナムへの訪問・視察および文化交流や意見交換などを通じて、日本とベトナムの政治経済・

文化交流などにおける現状と課題を理解し、今後の地域間交流の契機とするとともに、日本の自治体等職員の国際感覚の涵養を図ります。

国内研修では、ベトナムの一般事情に関する基礎的理解、自治体事例紹介（経済・文化交流など）、日本とベトナムの経済交流に関するレクチャーなどを行います。また、海外研修は以下の内容を予定しています。

①政治・経済などに関する現地情勢の把握、地方自治の理解

現地の日本政府機関、ベトナム政府機関などへの訪問、意見交換などを通じて、ベトナムの政治経済状況について理解を深めます。また、地方自治体を訪問し、実務レベルでの課題、今後の政策・展望について学びます。

②現地における日系企業の状況の把握

さまざまな形態で進出している日系企業を訪問し、ビジネスの現状や課題、現地市場やインフラの整備状況などについて理解します。

③訪日観光誘客・地域産品などの販路拡大に関する理解

2014年の訪日旅行者数が過去最高を記録し、今後も旅行者の拡大が期待されるベトナムからの観光誘客の取り組みを探ります。また、消費者特性や市場状況を学び、地域産品の販路拡大の可能性を探ります。

④日本・ベトナム間の文化交流

日本との経済交流、文化交流を背景に増加している日本語学習者との文化交流から、両国の文化慣習などに関する相互理解を深めます。

11日間にわたる充実した内容になっていますので、ぜひ皆さまのご参加をお待ちしています！



昨年はマレーシア住宅地方自治省を訪問